

平成29年度 学生海外PBLプログラム 概要

部局名 農学生命科学部

区分	内容
事業名	農産物・食品のFBI戦略対応人材育成事業—中国進出日系食品企業での企業研修プログラム—
指導教員	① 農学生命科学部 准教授 石塚 哉史 ② 農学生命科学部 教授 松崎 正敏 ※①は、チームリーダー
学生の所属	農学生命科学部園芸農学科3年 6名
渡航先 (渡航期間)	中国・山東省（平成29年10月28日～平成29年11月4日）
実施 スケジュール	平成29年10月1日～ 中国農業事情及び日系食品企業の中国展開に関する学習 // 10月28日～ 弘前⇒東京⇒成田 // 10月29日 成田⇒青島／青島市内視察（青島AEON等） // 10月30日 青島⇒萊陽／山東朝日緑源農業高新技術有限公司研修 // 11月1日 山東朝日緑源乳業有限公司研修 // 11月2日 山東朝日緑源農業高新技術有限公司研修 // 11月3日 山東朝日緑源農業高新技術有限公司研修 // 11月4日 羽田⇒青森⇒弘前 // 11月5日～ 研修結果取り纏め
プログラムの 概要	<p>1. 目的：</p> <p>平成25年8月に農水省はグローバルな食市場の開拓のためのFBI戦略を公表した。この戦略の内、輸出促進は成果が見えつつある。しかしながら、日本食材の活用促進、日本の「食文化・食産業」の海外展開という取組は緒に就いた段階であり、現時点において青森県及び弘前市には対応可能な企業や機関が確認できていない。上述の戦略に対応することは、少子高齢化で国内市場の拡大が見込みにくいわが国において地域経済の浮沈の鍵を握る重要なポイントとなっている。今後の国内市場は停滞・縮小が想定される中で新規市場開拓が喫緊の課題となっているものの、地域内の食品企業において、海外市場の開拓に資するノウハウや人材が不足している状況下において、それらの事象に対応可能な人材育成について（産業界等から）本学へ求められる期待は極めて大きいところである。そこで、本事業ではわが国のグローバル・フードビジネスのトップランナーであるアサヒビールホールディングスの全面的な支援を受け、世界最大の消費市場である中国において事業展開の最前線を学ぶ研修プログラムを実施することにおかれる。具体的には、中国において日本の食品企業が事業展開を取り組む上での必要なスキル等を学ぶとワークショップを開催する共に、現地での就業体験を中心に行うことを計画している。</p> <p>2. 事業概要：</p> <p>本事業では、以下の3つのワークを中心に取り組んでいく。①訪中以前に参加者が主体となり、日中間の農産物・食品貿易、日系食品企業の中国進出に関する文献の輪読、統計資料の整理を行い、理解を深める点、②日系資本を導入した大規模農場である山東朝日緑源農業高新技術有限公司及び山東朝日緑源乳業有限公司において農場および食品企業での実地研修を行う。③前出、①～②の内容を帰国後、学生主体で取り纏め、報告書（冊子）作成及び学科学生を対象とした帰国報告会を実施する。なお、既に現地の食品企業とは協力・連携関係を構築済みである。</p>

プログラムの概要	<p>3. 設定した課題： 現在は東アジアの包括的な貿易・投資を促進する仕組が検討されており、農林水産業及び食品産業も例外なく国際競争の波に曝されつつある。こうした中で日本国内の食料自給率は過半数以下に低迷したままであり、青森県や弘前という国内で上位の産出量を有する農産物を有する地域にとっては、近年は国内市場への販売だけでなく国際的な新規市場開拓も検討せざるを得ない事態になりつつある。少子・高齢化の中で新たな市場での販路開拓を求めざるを得ない中で、経済成長を継続している中国の動向把握に努めることは、青森県や弘前市の農業、食品産業による持続的発展の方途を構築する上で極めて重要なアクションになるものと考えられる。とりわけ、中国は日本産農産物・食品の輸出相手国・地域の第4位であり、今後も青森県や弘前市の地域特産物との需要拡大が期待されている地域である。従って、今回提案したプログラムの実施により、青森県、弘前市に立地する農業関連機関、食品産業に対して競合相手国の生産・流通に係る貴重な情報提供が可能となるといえよう。</p>	
	<p>4. 期待される成果等： 本事業の実施により、地域内に存在する食と農の持続的発展の可能性と課題を理解し、その解決方法に関心を持つことにより、関連業種への就職を希望する学生・院生の増加に繋がれば、農業・食品関連産業の国際化対応を担う人材を地域社会に送り出すことが可能となる。従って、本事業の様なプログラムを通じて、本学及び農学生命科学部が取り組むことは地域貢献という観点からも一定程度の意義は存在するものと考えられる。</p>	
	<p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあてる効果・成果等： 本事業により、今後急速に進展していく「食と農のグローバル化」という事象に対して、青森県及び弘前市に立地する食品企業がどの様に適応していくのかを検討していくことは、地域産業の存続と持続的発展を検討する上で必要な意識の醸成に繋がると考えられる。更に参加学生は、地域課題の実情を理解し、その解決方法に対する関心が高まり、関連業種への就職を希望する学生が増加することが期待でき、農業・食品関連産業の国際化対応を担う人材育成プログラムを本学が構築することに結びつくため、本学及び農学生命科学部のみでなく、青森県、弘前市等の地域にとってもメリットが大きなプログラムといえよう。</p>	
プログラムの様子	 <p>【写真1：農場視察①】</p>	 <p>【写真2：牛乳工場の見学】</p>
	 <p>【写真3：デントコーンの収穫①】</p>	 <p>【写真4：デントコーンの収穫②】</p>
	 <p>【写真5：企業へのヒアリング】</p>	 <p>【写真6：従業員との交流（餃子づくり体験）】</p>

今後の展望	<p>山東朝日緑源農業高新技術有限公司、山東朝日緑源乳業有限公司研修の両社共に次年度以降の本学の研修の受け入れに対して特段問題なく、継続することについて了解を得ている。それに加えて、中国に進出している日系食品企業の大手企業にも本取組への支援を呼びかけ、参画する企業を増やす等極めて好意的な対応を示している。現時点では、既に2～3社が視察研修への受け入れ対応を了承しており、今後の拡がりが大いに期待できる。また、参加した学生による在校生向けおよびオープンキャンパスでの成果報告会も予定しており、次年度以降の参加を希望する学生の確保や知識啓発等の意識付けにも繋げていく予定である。</p>
-------	--